

(単位：千円)

決算書 (P360～P361)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館図書充実費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
15,338	15,194				60 (寄附金)	15,134
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	144			72	72	

## 【目的】

暮らしの情報や課題解決、調査研究に役立つ様々な分野の図書館資料を収集・保存し、広く市民に提供する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・図書館資料の充実を図るとともに、市民ニーズを踏まえた地域の情報基盤としての図書館サービスを提供する。
- ・高田図書館、浦川原分館及び頸城分館の利用数  
図書貸出利用者数：124,200人 図書貸出冊数：523,000冊

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・令和元年度受入冊数 7,537冊 (購入：6,451冊、寄贈：1,086冊)
- ・令和元年度購入実績

区分	全体 ①+②	高田図書館①				分館②
		一般書		児童書		
		一般用	ティーンズコーナー			
冊数(冊) (割合%)	6,451	5,803	4,114 (70.9)	206 (3.5)	1,483 (25.6)	648
金額	11,741	10,767	8,143	332	2,292	974

決算書 (P 360～P 361)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館図書充実費		

・蔵書冊数（雑誌を除く。） (単位：冊)

施設名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比較
高田図書館	262, 370	264, 551	266, 583	2, 032
分館	36, 305	36, 411	36, 761	350
合計	298, 675	300, 962	303, 344	2, 382

・貸出利用者数（団体を含む。） (単位：人)

施設名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比較
高田図書館	113, 096	115, 950	119, 118	3, 168
分館	9, 216	10, 467	10, 168	△299
合計	122, 312	126, 417	129, 286	2, 869

※団体も 1 人として計算

・貸出冊数(団体を含む。) (単位：冊)

施設名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比較
高田図書館	475, 686	477, 218	480, 036	2, 818
分館	31, 715	35, 154	34, 785	△369
合計	507, 401	512, 372	514, 821	2, 449

○目標達成状況

貸出利用者数は 129, 286 人で目標を上回ったが、貸出冊数は前年より増加したものの 514, 821 冊となり、目標は達成できなかった。

【事業の成果】

図書館として多様な分野の図書資料を収集するとともに、県内外の図書館から必要な図書資料の借用も積極的に行い、利用者に提供した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

図書館資料の充実を進めるとともに、蔵書をいかしたテーマ展示などの図書紹介を工夫し、減少傾向にある一人当たりの貸出冊数の増加に努める。

【執行残額について】

○入札差金 72

・合本製本委託料、高額図書購入費ほか

○その他 72

・通信運搬費、装備委託料ほか

(単位：千円)

決算書 (P360～P361)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	図書管理電算化事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
23,753	23,582					23,582
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	171	51		112	8	

## 【目的】

図書館サービスの正確化、迅速化を図るため、図書館システム及び端末を適切に維持管理する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・図書館システム及び端末の適正な維持管理を図るとともに、市民ニーズを踏まえた利用しやすい図書館サービスを提供する。
- ・インターネットによる図書館資料予約処理件数：48,000 件

## ○実施内容、これまでの経過等

図書館システムのリース満了に伴い、平成 29 年 2 月に高田図書館と直江津図書館のシステムと機器を更新するとともに、浦川原分館と頸城分館も同一のシステムと機器を導入し、4 館のネットワーク化を図った。また、ホームページにスマートフォン用サイトを設定したことで、スマートフォンからホームページサービスが利用しやすくなった。さらに、新たな機能として返却期限の通知メールや、キーワード図書新着メール(登録したキーワードと合致した図書が図書館で所蔵されたときに通知)サービスなどを備えた。

令和元年 9 月からは、予約本の取り置き期限日を、予約確保のお知らせメールやホームページの画面で表示できるように設定し、図書館サービスの迅速化や利便性の向上を図った。

## &lt;インターネット予約処理件数&gt;

(単位：件)

項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比較
インターネット予約処理件数	44,977	49,657	54,001	4,344
ホームページアクセス数	181,573	176,284	197,049	20,765

決算書 (P360～P361)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	図書館管理電算化事業		

○目標達成状況

インターネット予約処理件数は 54,001 件で、目標を上回った。

【事業の成果】

- ・平成 29 年 2 月にスマートフォン用サイトを設定したことから利便性が向上し、インターネット予約処理冊数は毎年度増加している。
- ・ホームページサイト利用者の要望に応じて予約本の取り置き期限日を表示できるようにするなど、利用しやすいサイトづくりを進めている。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

図書館ホームページの利用促進を図るため、図書館だより「パピルス」や市のホームページ、報道機関への情報提供などにより、広く市民にPRしていく。

【執行残額について】

- 事業費節減 51
  - ・手数料
- 入札差金 112
  - ・印刷製本費
- その他 8
  - ・消耗品費ほか

(単位：千円)

決算書 (P362～P363)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
139,300	137,662	26,458		5,700	358 (使用料、財産収入、 諸収入)	105,146
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,638			551	1,087	

## 【目的】

市民の生涯学習活動の拠点施設として、高田図書館及び分館を適切に維持管理し、安全・安心な読書環境を提供する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・主な維持管理費(施設関係)
  - カーボン・マネジメント設備導入業務委託 56,949  
(空調設備改修、照明LED化)(高田図書館)
  - 空調設備リモートユニット改修工事(高田図書館) 13,090
  - 高圧コンデンサ交換修繕(高田図書館) 1,430
  - 空調設備ダンパ交換修繕(高田図書館) 1,144
  - 非常電源用蓄電池交換修繕(高田図書館) 1,080
  - ガラスブロック等シーリング修繕(高田図書館) 1,009
  - トイレ改修工事(便器洋式化)(高田図書館) 831
  - 空調設備基板交換修繕(高田図書館) 188

## ・図書館資料の配送

直江津図書館、浦川原分館、頸城分館及び公民館図書室を定期的に巡回し、高田図書館を起点に直江津図書館へは週6回、分館へは週3回、公民館図書室へは週1～2回、図書館資料の配送を行った。

## ○施設の管理実績

## ・利用者数

(単位：人)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			計画	実績
入館者数(高田図書館のみ)	234,317	229,904		231,738
図書貸出利用者数(分館を含む。)	122,312	126,417	124,200	129,286

※入館者数には小川未明文学館利用者と、観桜会会期中の利用者を含む。

決算書 (P 362～P 363)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度		
			予 算	実 績	
①収入	使用料収入	49	72	40	50
	その他	288	297	32,828	32,466
	合計	337	369	32,868	32,516
②支出	施設維持管理費	30,110	28,554	32,248	31,785
	うち委託料	11,245	12,866	13,811	13,445
	その他	70,423	34,806	107,052	105,877
	合計	100,533	63,360	139,300	137,662
③公費投入額 (②-①)	100,196	62,991	106,432	105,146	
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)	819	498	857	813	

※④利用者は、高田図書館、分館の図書貸出利用者

【事業の成果】

高田図書館の設備のうち老朽化が著しかった空調設備について、国庫補助事業によりパッケージエアコン 2 台・マルチエアコン 2 台の更新を行い、空調設備ポンプに省エネ効果の高いインバーター制御を導入したほか、単独事業によりリモートユニットの更新等を行ったことで懸案であった空調設備のほぼ全体が更新された。また、照明設備について国庫補助事業により小川未明文学館を主に LED に更新し、施設の長寿命化及び設備の安定化を図った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・高田図書館は、平成 6 年に開館して 26 年が経過し、昇降機、消防設備等の諸設備及び建築物の老朽化が進んでいることから、利用者の安全確保と快適な読書環境の提供及び施設の長寿命化を図るため、引き続き優先順位を定めて修繕を実施していく。
- ・身近に本がある環境を提供するため、公民館図書室を窓口にした図書館資料の予約や受取、返却が円滑にできるよう、引き続き配送サービスに取り組み、利便性を図っていく。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 551
  - ・工事請負費
- その他 1,087
  - ・共済費、費用弁償等 198 (現業非常勤一般職の勤務実績による)
  - ・燃料費 28
  - ・水道料金 86
  - ・委託料 367
  - ・下水道使用料ほか 408

(単位：千円)

決算書 (P362～P363)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津図書館図書充実費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
6,726	6,700				40 (寄附金)	6,660
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	26			10	16	

## 【目的】

暮らしの情報や課題解決、調査研究に役立つ様々な分野の図書館資料を収集・保存し、広く市民に提供する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

## 直江津図書館利用数

- ・ 図書及び視聴覚資料貸出者数：82,400人
- ・ 図書及び視聴覚資料貸出点数：298,200点

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・ 令和元年度受入冊数 3,653冊 (購入：3,313冊、寄贈：340冊)
- ・ 令和元年度購入実績

区分	直江津図書館				
		一般書			児童書
		一般用	鉄道図書 コーナー	ティーンズ コーナー	
冊数(冊) (割合%)	3,313	2,045 (61.7)	119 (3.6)	263 (7.9)	886 (26.8)
金額	5,345	3,419	222	346	1,358

## ・ 蔵書冊数 (雑誌を除く。)

(単位：冊)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度比較
	冊数	144,021	147,530	150,046

決算書 (P 362～P 363)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津図書館図書充実費		

・貸出利用者数（団体を含む。） (単位：人)

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比較
資料種別	図書・雑誌	76,574	75,531	76,890	1,359
	視聴覚資料	6,141	6,227	5,347	△880
合 計		82,715	81,758	82,237	479

※団体も1人として計算

・貸出点数（団体を含む。） (単位：点)

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比較
資料種別	図書・雑誌	297,001	291,049	289,972	△1,077
	視聴覚資料	10,209	10,244	8,697	△1,547
合 計		307,210	301,293	298,669	△2,624

○目標達成状況

貸出利用者数は 82,237 人、貸出点数は 298,669 点となり、貸出利用者数は目標にわずかに届かなかったが、貸出点数は目標を達成した。

【事業の成果】

水族博物館うみがたりや歴史博物館などと連携した催しや図書館独自の催しを通じて、関連する本を貸し出すなど、様々な本との出会いを工夫して行った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

令和2年6月から新たに供用開始となった立体駐車場の利用を促しつつ、他の機関との連携により多彩な催しを行い、読書の機会の創出とともに資料の充実を図ることによって、直江津図書館への来館を促していく。

【執行残額について】

○入札差金 10

・合本製本委託料

○その他 16

・図書装備委託料、通信運搬費ほか



(単位：千円)

決算書 (P362～P363)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津学びの交流館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
56,750	56,363				4,302 (使用料、財産収入、 諸収入)	52,061
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	387				387	

## 【目的】

市民の生涯学習活動や文化活動の支援を行うとともに、情報提供の場としての直江津学びの交流館・直江津図書館の適切な管理、運営を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・施設の安全を維持しながら、集会や各種講座、音楽、スポーツ、読書等、利用者がより快適に活動できる場の提供に努める。
- ・年間利用者総数：246,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

## ・利用実績

開館日数：348日

部屋別	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	利用件数 (件)	稼働率※ (%)	利用件数 (件)	稼働率※ (%)	利用件数 (件)	稼働率※ (%)
イベントホール	563	54.1	542	51.9	518	49.6
音楽室	677	65.0	690	66.1	587	56.2
小集会室	685	65.8	674	64.6	675	64.7
多目的ホールA	532	51.1	512	49.0	468	44.8
多目的ホールB	428	41.1	331	31.7	367	35.2
多目的ホールC	456	43.8	466	44.6	405	38.8
合計	3,341	53.5	3,215	51.3	3,020	48.2
貸館利用者数(人)	41,329		39,680		36,178	

※稼働率：1日のうち、午前・午後・夜間、全て利用された場合を100%とし、1回の利用を33.3%とする

決算書 (P 362～P 363)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津学びの交流館管理運営費		

○施設の管理実績

・利用者数

(単位：人)

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
			目標	実績
入館者数	247,517	245,609	246,000	242,455

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	4,147	4,082	4,255	3,776
	その他	441	485	448	526
	合計	4,588	4,567	4,703	4,302
②支出	施設維持管理費	25,800	25,665	27,888	27,589
	うち委託料	10,622	10,717	11,389	11,388
	その他	27,205	28,051	28,862	28,774
	合計	53,005	53,716	56,750	56,363
③公費投入額 (②-①)		48,417	49,149	52,047	52,061
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位：円)		196	200	212	215

○目標達成状況

年間利用者数は 242,455 人であり、目標と比べて 3,545 人下回った。

【事業の成果】

直江津駅前という立地環境をいかし、様々な市民活動や学びの場として活用されたほか、市外や県外からの会議、催しの会場としても利用された。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・利用者数の減少については、3 月の減少が特に大きかったことから、新型コロナウイルス感染症が影響したものと考えている。
- ・令和 2 年 6 月に直江津学びの交流館向かいに立体駐車場がオープンし、2 時間まで無料で駐車できるようにしたこと、図書館利用の促進を図るとともに、生涯学習活動、各種集会や研修会などの会場として、市内外から利用してもらえるよう取り組んでいく。
- ・令和 2 年度中に、平成 22 年 10 月の開館から 10 周年を迎えることから、施設の計画的なメンテナンスを図りながら、維持管理を行っていく。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

○その他 387

- ・共済費、修繕料、共益費負担金ほか

(単位：千円)

決算書 (P 364～P 365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
36,224	31,283				5,280 (使用料、謝収)	26,003
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,941	98		1,135	3,708	

## 【目的】

市立歴史博物館において、当市の貴重な歴史・民俗等について調査・研究し、その成果を展覧会や図録等の刊行物で市民に紹介するとともに、安全で快適な施設の維持管理を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

企画展開催事業 2,807

○令和元年度目標

入館者数：32,000人

○実施内容、これまでの経過等

## (1) 企画展の開催

展覧会名	会期	内容	入館者数 (うち展覧会 観覧者数)
特別公開 御所参内・聚楽第行幸図屏風	4/1～ 6/30	寄託資料である「御所参内・聚楽第行幸図屏風」と平成29年度に榊原家から寄贈された資料を紹介した。	43,839人 (5,814人)
開館一周年記念企画展 上越の寺社と徳川の城・高田	7/20～ 10/20	市内の寺社に伝来する松平忠輝、松平忠昌、松平光長時代の資料を紹介した。	18,368人 (5,431人)
企画展 探検！むかしの暮らし	11/16 ～3/8	昭和のくらしの道具を中心に、身の回りの生活の移り変わりを紹介した。	11,539人 (3,770人)
展覧会期間中の入館者数合計…(a)			73,746人 (15,015人)
常設展示のみの期間の入館者数…(b)			8,995人 (1,983人)
令和元年度の総入館者数…(a) + (b)			82,741人 (16,998人)

決算書 (P 364～P 365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

(2) 教育・普及事業

事業名	内 容	開催日	参加者数
展示解説会	常設展示「越後の都」 ※予約による団体解説を実施	通年	69 件 2,018 人
	開館一周年記念企画展 「上越の寺社と徳川の城・高田」	7/20	延べ 115 人
		8/3	
		8/25	
企画展「探検！むかしの暮らし」 ※小学校 3 年生の授業に対応	会期中	44 校 (40 校) 1,564 人 (1,443 人) ※ ( ) は市内	
出前講座・ 職員派遣	新潟日報社主催 「未来のチカラ in 上越」企画講座	5/9	15 人
	五智歴史の里会館 文化講演会	5/25	70 人
	上越プロバスクラブ 講話	6/12	15 人
	松平忠輝と五郎八姫の会 講演会	8/10	80 人
	高田地区公民館事業 歴史めぐり	9/4	20 人
		9/18	20 人
	兵庫県立歴史博物館 歴史講演会	9/15	100 人
	旧高田藩和親会 郷土史フォーラム	10/26	100 人
	新潟大学非常勤講師	10/31	100 人
		11/7	100 人
		11/14	100 人
	新潟県社会科教育研究会 秋季研究発表大会	11/9	30 人
	清里地区公民館事業 清里すこやか大学	11/20	30 人
	三和区公民館事業 歴史まち探訪	11/21	15 人
新潟日報カルチャースクール上越教室講座 郷土ゆかりの先人たちを学ぶ	12/7	15 人	
「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事 業主催 シンポジウム	3/1	25 人	
刊行物の 発行	名称：『開館一周年記念企画展 上越の寺社と徳川の城・高田』パンフレット 規格：A4 判 24 ページ 部数：1,000 部		
	名称：『探検！むかしの暮らし』探検ブック ※小学 3 年生用のワークシート 規格：A2 判 蛇腹折 部数：2,000 部		

(3) 調査・研究事業及び資料管理事業

市内に所在する歴史・民俗資料の調査・収集及び歴史資料や図書の購入を行った。

○目標達成状況

・入館者数は 82,741 人となり、目標数を大きく上回った。

決算書 (P 364～P 365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

民俗資料整理事業 2,451

○実施内容、これまでの経過等

- ・平成 19 年度以降、各区の民俗資料の統一的な整理を進めてきた。
- ・民俗資料の再整理と台帳化作業は平成 26 年度までに終了した。また、台帳のデータベース化を進めており、令和元年度末までに 11,241 件 28,639 点の入力を終了した。
- ・平成 25 年度から岡沢拠点収蔵施設を整備し、民俗資料の一元管理を進めている。
- ・平成 30 年度までに各区に分散収蔵されていた民俗資料の移動を計画どおり終了した。
- ・令和元年度は岡沢拠点収蔵施設における資料配架作業、さらに平成 28 年度以降の新規寄贈資料約 1,200 点のうち約 500 点の台帳化作業を行った。

施設の維持管理 26,025

○実施内容

歴史博物館、岡沢拠点収蔵施設及び黒岩拠点収蔵施設の維持管理を適正に実施した。

○施設の管理実績

- ・利用者数

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
			計 画	実 績
入館者数	—	41,134 人	32,000 人	82,741 人

※平成 29 年度は、大規模改修工事のため休館

- ・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
				予算	実績
① 収入	使用料収入	—	4,924	4,766	5,176
	その他	—	396	90	104
	合計	—	5,320	4,856	5,280
② 支出	施設維持管理費	7,472	32,514	30,253	26,025
	うち委託料	2,934	11,665	15,103	12,858
	その他	5,338	11,399	5,971	5,258
	合計	12,810	43,913	36,224	31,283
③ 公費投入額 (②-①)		12,810	38,593	31,368	26,003
④ 利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)		—	938	980	314

※平成 29 年度は、大規模改修工事による休館のため収入なし

決算書 (P 364～P 365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

#### 【事業の成果】

- ・開館 1 周年記念企画展として、平成 26 年度の高田開府 400 年特別展で取り上げられなかった市内寺社の資料を紹介する「上越の寺社と徳川の城・高田」を開催し、市民に寺町の寺院と高田城主とのつながりについて学習する機会を提供できた。
- ・時機を得た特別展・企画展を開催することによって、市民が地域の歴史や文化に触れる機会を提供し、郷土の歴史・文化への理解や愛着を深めることができた。
- ・年間の入館者数は 82,741 人となり、目標 32,000 人を上回った。これは、観桜会期間中(4/1～4/15)に 29,006 人が利用するなど、屋上や喫茶コーナーの需要が高かったことなどによる。
- ・例年開催している「探検！むかしのくらし」では、44 校 1,564 人（うち市内 40 校 1,443 人）の小学 3、4 年生が見学し、昭和から平成にかけての暮らしの道具や電化製品に触れ、道具の工夫や暮らしについて学ぶ機会となった。
- ・岡沢拠点収蔵施設における民俗資料の配架・集密化作業、新規受入資料の台帳整備を計画的に実施した。

#### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・収蔵資料や市内の歴史に関する研究を深め、新たな知見の蓄積に努めていくとともに、成果を講座・展覧会や論文・報告書などの形で市民に還元していく。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

#### 【執行残額について】

- 事業費節減 98
  - ・旅費（資料調査の日程や行程を調整したことによる減ほか）
- 入札差金 1,135
  - ・印刷製本費、施設管理委託料
- その他 3,708
  - ・報酬、共済費ほか 553（展示作業の調整などによる非常勤職員報酬の減ほか）
  - ・燃料費、修繕料ほか 404（庁用車燃料費、営繕修繕料の残ほか）
  - ・光熱水費 1,235（使用量が想定を下回ったため）
  - ・委託料、使用料及び賃借料ほか 1,516（屋根雪下ろし委託料や下水道使用料の残ほか）

(単位：千円)

決算書 (P364～P365)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
5,127	4,740					4,740
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	387			10	377	

## 【目的】

当市出身の小林古径の作品及び当市ゆかりの美術作品等を適正に保存管理し、調査研究する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容

- ・新年祝賀会で小林古径の複製画を展示し、多くの参加者から触れてもらう機会を提供するとともに、古径の作品や小林古径記念美術館を広くPRした。
- ・当市ゆかりの美術作品等の調査及び約200件分の台帳作成を進めるとともに、令和2年度の開館記念展の準備や令和3年度に開催予定の企画展の出品交渉及び作品調査を行った。
- ・収蔵品及び施設の適正な維持管理を行った。

## ○施設の利用実績

- ・利用者数  
平成29年度から令和元年度までは、増改築工事に伴う休館のため、利用実績なし。

決算書 (P 364～P 365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料	-	-	-	-
	その他	2	-	-	-
	合計	2	-	-	-
②支出	施設維持管理費	6,900	3,965	4,973	4,610
	うち委託料	279	178	334	326
	その他	208	137	154	130
	合計	7,108	4,102	5,127	4,740
③公費投入額 (②-①)		7,106	4,102	5,127	4,740
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)		-	-	-	-

※平成 29 年度から令和元年度までは、増改築工事に伴う休館のため、使用料収入なし

【事業の成果】

- ・増改築工事に伴う休館中における収蔵品の適切かつ安全な保存環境を維持した。
- ・当市ゆかりの作品調査や企画展の出品交渉を行い、企画展の開催準備を計画どおり進めることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・令和 2 年 10 月 3 日に予定している開館に向けて、事業が円滑に実施できるよう計画的な準備を行う。
- ・企画展開催に向けた出品交渉や作品調査などを計画的に実施していく。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

○入札差金 10

- ・運搬料、委託料

○その他 377

- ・普通旅費、光熱水費、通信運搬費ほか



(単位：千円)

決算書 (P 364～P 365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径邸管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
10,792	10,393					10,393
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	399			64	335	

## 【目的】

国登録有形文化財である小林古径邸を適正に管理・運営するとともに、建物を活用して古径の人となりや芸術性を紹介する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容

- ・美術館増改築工事に伴い休館中の小林古径邸及び画室について、適正な維持管理を行った。
- ・庭園内の植栽整備や機械警備の更新を計画どおり実施した。

## ○施設の利用実績

- ・利用者数  
平成30年度6月以降及び令和元年度は、増改築工事に伴う休館のため、利用実績なし。

## ・施設管理における市の収支状況

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
				予算	実績
①収入	使用料	1,007	342	-	-
	その他	6	-	-	-
	合計	1,013	342	-	-
②支出	施設維持管理費	12,411	8,319	10,792	10,393
	うち委託料	7,133	6,284	9,000	8,936
	その他	149	-	-	-
	合計	12,560	8,319	10,792	10,393
③公費投入額(②-①)		11,547	7,977	10,792	10,393
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)		1,689	-	-	-

※平成30年度6月以降及び令和元年度は、増改築工事に伴う休館のため、使用料収入なし

決算書 (P 364～P 365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径邸管理運営費		

**【事業の成果】**

美術館増改築工事に伴う休館中における小林古径邸及び画室を適正に維持管理した。

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

- ・美術館増改築工事後は、小林古径邸と画室との一体的な維持管理を適正に行う。
- ・開館後は、小林古径邸や画室内での作品展示や展覧会関連イベントの開催を通して、より有効な小林古径邸の活用に努める。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

**【執行残額について】**

- 入札差金 64
  - ・委託料
- その他 335
  - ・報償費、旅費、光熱水費ほか

(単位：千円)

決算書 (P 364～P 367)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	歴史民俗資料館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
2,060	2,026				77 (使用料)	1,949
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	34				34	

## 【目的】

牧歴史民俗資料館が収蔵する国史跡「宮口古墳群」の出土品(新潟県指定有形文化財)を始め、水科古墳群及び菅原古墳の出土品並びに油田関係資料を含む民俗資料を適正に保存・管理し、公開する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

入館者数：700人

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・民俗資料や「宮口、水科、菅原古墳群」の出土品を適正に管理し、入館者が快適に施設を利用できるように維持管理を行った。
- ・開館期間 4月～11月(12月～3月は休館)  
※平日は希望見学(牧区総合事務所で鍵を管理)

## ○施設の管理実績

- ・利用者数

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
			計 画	実 績
入館者数	790人	657人	700人	656人

決算書 (P364～P367)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	歴史民俗資料館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	73	67	63	77
	その他	-	-	-	-
	合計	73	67	63	77
②支出	施設維持管理費	2,005	1,951	2,060	2,026
	うち委託料	326	324	327	314
	その他	-	-	-	-
	合計	2,005	1,951	2,060	2,026
① 公費投入額 (②-①)		1,932	1,884	1,997	1,949
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位:円)		2,446	2,868	2,853	2,971

○目標達成状況

平成 30 年度と令和元年度の入館者数はほぼ同数であり、台風の影響などにより市内の小学校や団体などの利用人数が見込みより少なかったことから目標を達成できなかった。

【事業の成果】

古墳時代の資料を中心とした展示や豊富な民俗資料の常設展示と合わせて、市内小学校の総合的な学習の時間や公民館講座などにより、幅広い年代層に対して地域の歴史文化についての関心を高めることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・近隣小学校の利用促進に努めるとともに、歴史博物館を始め、他の歴史系展示施設でのPRに努める。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

○その他 34 (事業実績による残)

- ・報酬、共済費、旅費 5
- ・消耗品費、光熱水費、修繕料 12
- ・通信運搬費、委託料、使用料及び賃借料 17

(単位：千円)

決算書 (P366～P367)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館増改築事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
388,669	382,744		4,500	361,300	16,720 (寄附金・繰越金)	224
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	5,925			5,688	237	

## 【目的】

小林古径邸敷地内に古径作品や上越ゆかりの美術作品等を公開するための展示施設を整備する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

令和2年の開館に向け、増改築工事を進める。

## ○実施内容

(整備方針)

- ・小林古径を中心として、上越ゆかりの美術作品や他館から借用した美術作品など、多様な企画展を開催するために必要な施設整備を行う。
- ・展覧会活動のほか、子どもから大人まで気軽に美術に親しめるワークショップを開催する。

(主な整備内容)

- ・増改築工事：展示室（古径記念室・企画展示室）、一時保管庫（収蔵庫）、多目的室（二ノ丸ホール）、ロビー、トイレなど
- ・その他整備工事：庭園整備、古径塔移設など

(整備スケジュール)

年度	実施内容	事業費	
		実績	
平成27年度	内部検討、基本設計	実績	1,624
平成28年度	基本設計、地質調査	実績	7,331
平成29年度	実施設計	実績	21,327
平成30年度	建設工事	実績	85,890
令和元年度	建設工事、警備工事、ガス消火設備設置工事等	実績	382,744
令和2年度	外構工事、石碑移設、備品購入等	予定	49,930
事業費合計			548,846

決算書 (P366～P367)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館増改築事業		

**【事業の成果】**

工事の進捗管理を適切に行い、計画どおりに本体工事を完了した。

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

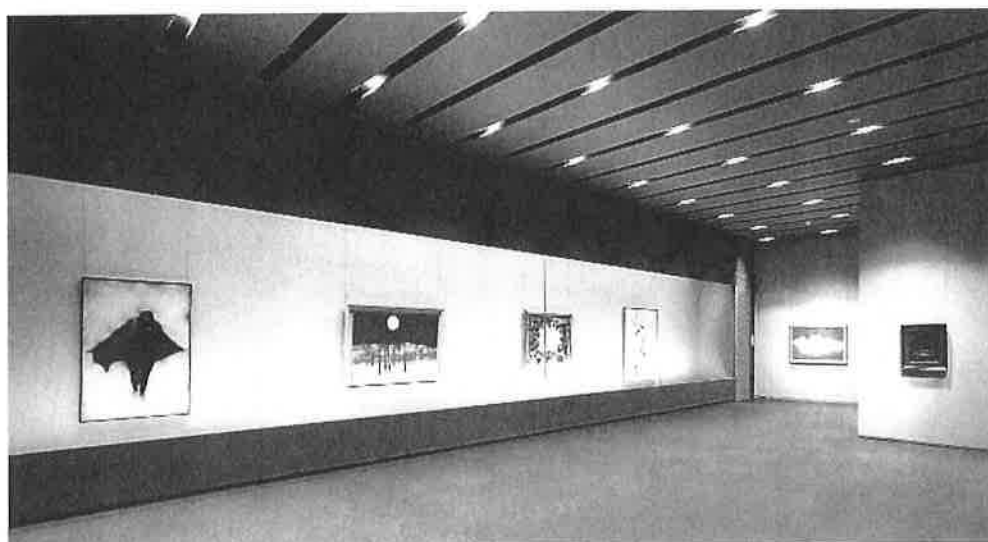
令和2年度は、本体工事に引き続き外構工事を実施し、令和2年10月3日の開館に向けて準備を進める。

**【執行残額について】**

- 入札差金 5,688
  - ・工事監理委託料 1,457
  - ・工事請負費 4,231
- その他 237
  - ・報償費、旅費



美術館外観



企画展示室

(単位：千円)

決算書 (P366～P367)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	スキー発祥記念館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
5,089	5,055				315 (使用料)	4,740
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	34			10	24	

## 【目的】

日本におけるスキーの発祥と歴史の変遷、当市のスキー産業の盛衰等を学べる場を提供し、郷土に対する理解を深め、スキーに関する教育、学術、文化の振興を図るとともに、「日本スキー発祥の地 上越市」を市内外に広く発信する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

入館者数：2,900人

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・日本オーストリア友好150周年を記念し、オーストリアリエンフェルト市のツダルスキー博物館から市へ寄贈されたツダルスキーの一本杖を始め、長岡外史ゆかりの資料を展示した。
- ・夏休み及び金谷山スキー場営業期間中に、金谷山スーパーボブスレーやスキー場の利用者に対する入館料の割引措置を実施した。また、スーパーボブスレー乗り場などに割引措置のPRポスターを掲示した。(平成29年度：43人、30年度：65人、令和元年度：87人)
- ・冬季シーズンに合わせて、ポスター・チラシを作成して新潟県、長野県等近隣のスキー場やホテル等、市内各施設に配布し、誘客を促した。

## ○施設の管理実績

- ・利用者数等

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			計画	実績
入館者数	2,649人	2,737人	2,900人	2,984人

決算書 (P366～P367)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	スキー発祥記念館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
				予算	実績
① 収入	使用料収入	253	288	310	315
	その他	-	-	-	-
	合計	253	288	310	315
② 支出	施設維持管理費	4,591	4,790	4,938	4,904
	うち委託料	2,776	2,828	2,851	2,831
	その他	203	129	151	151
	合計	4,794	4,919	5,089	5,055
③ 公費投入額 (②-①)	4,541	4,631	4,779	4,740	
④ 利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)	1,714	1,692	1,648	1,588	

○目標達成状況

平成 30 年度と比較し、ポスターやチラシの配布によって団体利用やレルヒ祭・スキーの日の入館者が増加したことから、入館者数は 2,984 人となり、目標を達成した。

【事業の成果】

日本スキー発祥の歴史・文化を学ぶことができる場を提供することにより、郷土に対する理解を深め、「日本スキー発祥の地 上越」について情報発信することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・引き続き市内の小中学校へPRし、入館者数の目標達成に努める。
- ・ポスター・チラシの配布時期や配布先を見直し、入館者増につなげていく。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 10
  - ・委託料
- その他 24
  - ・光熱水費 ほか



(単位：千円)

決算書 (P366～P367)	10 款 5 項 5 目 水族博物館費	所管課等	教育総務課
事業名	水族博物館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
353,545	352,764				126,129 (諸収入等)	226,635
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	781			185	596	

## 【目的】

自然環境の保全などへの関心を高めるため、水生生物の飼育展示などを行うとともに、来館者の安全確保を第一に施設の維持管理を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・指定管理業務を点検することにより、管理運営の瑕疵による事故発生件数を0件とする。
- ・アルゼンチン共和国チュブ州政府との協力協定に基づき、マゼランペンギンの保全に向けた連携を具体的に推進する。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・指定管理者の知見や技術に基づき、管理運営を進めた。
- ・令和元年10月にアルゼンチン共和国チュブ州を訪問し、マゼランペンギンの保全活動で使用する双眼鏡を提供するとともに、マゼランペンギンの保全に関する協力協定に基づき、マゼランペンギンの研究及び保全活動、同種の飼育繁殖に関する情報及び技術の交換に関する協力について、具体的事項を定めた附属文書を締結した。
- ・また、附属文書において、水族博物館がマゼランペンギンの生息域外重要繁殖地として指定を受けた。

## ○施設の管理実績

- ・入館者数等

区分	平成29年度※1	平成30年度※2	令和元年度	
			計画	実績
入館者数	37,847人	732,759人	591,200人	514,946人
入館料収入	25,181,390円	973,460,178円	783,925,860円	689,064,546円

※1 平成29年度の開館期間は4月1日から5月14日まで

※2 平成30年度の開館期間は6月26日から3月31日まで

決算書 (P 366～P 367)	10 款 5 項 5 目 水族博物館費	所管課等	教育総務課
事業名	水族博物館管理運営費		

・指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
		実績	実績	予算	実績
①収入		—	—	—	—
②支出	施設管理運営 業務委託料	141,108	228,610	—	—
	委託料	10,001	3,797	—	—
	修繕料	659	0	162	0
	その他 (土地借上料、備品 購入費等)	27,904	354	6,708	6,706
	合 計	179,672	232,761	6,870	6,706
③公費投入額 (②－①)		179,672	232,761	6,870	6,706
④入館者 1 人当たりの 公費投入額(単位:円)		4,747	318	12	13

○指定管理者の収支状況等 (税抜)

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
		実績	実績	計画	実績
①収入	利用料金収入	23,814	901,352	722,556	635,183
	施設管理運営 業務委託料	130,656	211,676	—	—
	その他	11,564	4,187	3,174	2,341
②支出		145,460	894,500	571,011	639,588
差引 (①－②)		20,574	222,715	154,719	△2,064

○目標達成状況

- ・指定管理者の知見や技術をいかすことにより、適切な管理運営を実施した。
- ・アルゼンチン共和国チュブ州政府への双眼鏡の提供により、マゼランペンギンの保護区でレンジャーが行うパトロールや生態観察などの保全活動に資することができた。
- ・アルゼンチン共和国チュブ州政府との附属文書の締結により、準絶滅危惧種であるマゼランペンギンの保全に関する双方の協力関係並びに友好関係がより一層深められた。

決算書 (P 366～P 367)	10 款 5 項 5 目 水族博物館費	所管課等	教育総務課
事業名	水族博物館管理運営費		

### 【事業の成果】

指定管理者の知見や技術をいかした管理運営の下、テーマである日本海に生息する水生生物、マゼランペンギンや鯨類の常設展示、海洋ごみをテーマにした特別展「うみのごみ」などにより、水生生物に関する情報を発信するとともに、施設の舞台裏を紹介するバックヤードツアーや展示生物の解説を行う館内ガイドツアーなど多彩な教育普及プログラムを実施し、入館者の幅広い興味や学習欲求に応えた。

### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・水生生物を通じた学びの場、交流の場として、市民を始めとする多くの方々の持続的な利用を確保するために、展示や教育普及事業の更なる充実を図るとともに、引き続き適切な維持管理を行うほか、計画的なリニューアルを実施していく必要がある。
- ・新しい生活様式を取り入れた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、施設の利用者及び事業の参加者が安全に安心できるように、施設の適切な管理運営等を行う必要がある。
- ・グランドオープンから2年余りで4頭の鯨類が死亡したことについて、専門家で構成する「上越市立水族博物館鯨類飼育環境検証委員会」において、建築、水質、飼育の各方面から水族博物館における鯨類の飼育環境を検証し、今後の飼育展示の一助とする。

### 【水族博物館整備運営基金残高について】

平成 30 年度末残高	令和元年度積立額	令和元年度末残高	積立額内訳
71,589,421 円	341,015,747 円	412,605,168 円	<u>平成 30 年度分</u> 指定管理業務納付金 340,711,062 円 寄附金 167,400 円 基金運用利子 6,012 円 <u>令和元年度分</u> 寄附金 100,000 円 基金運用利子 31,273 円

### 【執行残額について】

○入札差金	185	
・生物保全活動用機材		33
・運搬料		152
○その他	596	
・報償金		183
・費用弁償		94
・普通旅費		1
・消耗品費		23
・営繕修繕料		162
・筆耕翻訳料		33
・生物保全コーディネーター業務委託料		1
・アルゼンチン訪問渡航手配委託料		95
・自動体外式除細動器借上料		1
・土地借上料		1
・水族博物館整備運営基金積立金		2

(単位：千円)

決算書 (P366～P369)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	文化財保存整備費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
6,529	5,725				386 (寄附金・譲収入)	5,339
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	804				804	

## 【目的】

県内最多を誇る 368 件の指定文化財の適切な保存・伝承に努めるとともに、計画的に新たな指定を行うことにより適切な保護を図り、活用を促進する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・文化財調査審議会の開催 (2 回)
- ・上越市文化財の指定 (1 件)
- ・北前船日本遺産関連のパネル展示及び各種講座への講師派遣、ゆかりの文化財調査等
- ・文化財等の管理委託  
史跡の草刈りや遊歩道整備等 (直峰城跡、宮口・水科古墳群ほか)
- ・無形民俗文化財保存事業への補助  
西横山小正月行事保存会、月影雅楽保存会、岡田郷土芸能保存会ほか
- ・指定文化財保存管理事業への補助  
浄興寺本堂、虫川の大スギ、坊金の大スギ、林富永邸ほか
- ・文化財看板の修繕  
稲田町口番所跡・高田銭座跡、上杉時代の環濠屋敷
- ・春日山城・高田城の御城印作成
- ・「地域の宝」認定制度の創設に向けた調査、検討

## 【事業の成果】

- ・「旧今井染物屋住宅 主屋・土蔵 附土蔵覆屋 1 棟」を上越市文化財に指定した。
- ・北前船の寄港地である直江津の魅力を市民に知ってもらうため、直江津学びの交流館においてパネル展「直江津のチカラ」を開催した。また、公民館講座や市民団体主催の講座、観光ボランティアガイド養成講座等に講師を派遣し、北前船日本遺産の周知を図った。
- ・小学校の総合的な学習の時間や文化財に関する講座への講師派遣などにより、文化財保護の啓発を行い、郷土の歴史・文化に誇りや愛着を持てるように努めた。
- ・春日山城跡、高田城跡の魅力を発信する事業を検討し、御城印を作成した。(令和 2 年 4 月 1 日頒布開始)

決算書 (P 366～P 369)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	文化財保存整備費		

- ・文化財の次世代への継承を図るため、有形・無形、文化財の指定の有無にかかわらず、地域社会の中で大切に守り伝えられ、人々のよりどころとする文化財を「地域の宝」と定義し、それを保存・活用する取組を総体として認定する制度の創設を進めた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・未指定文化財の調査を進め、保護を図る。
- ・文化財指定後は、関係課と連携を図りながら、市民周知を図る。
- ・文化財標柱、説明看板等について、維持管理方針に基づき、必要な修繕、撤去等を進める。
- ・「地域の宝」認定制度の運用を進める。

【執行残額について】

○その他	804	
・報酬、共済費、報償費、旅費	410	
・需用費、役務費	27	
・使用料及び賃借料、委託料	137	
・負担金、補助金	230	

(単位：千円)

決算書 (P 368～P 369)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	春日山城跡保存整備事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
13,172	12,869				227 (寄附金)	12,642
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
	303			108	195	

## 【目的】

当市が全国に誇る春日山城跡を、風雨等による損傷から守り、約 100 年前の城跡の景観に復元して後世に継承するとともに、適切な維持管理を行い、地域学習の教材として利活用を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・土砂崩落や倒木等による遺構破損を防ぎ、城跡の保存を図るため、自然状況に合わせた適切な雨水処理や植生管理等に取り組む。
- ・春日山城跡のガイダンス施設である春日山城跡ものがたり館において、広大な城跡の価値や魅力を分かりやすく紹介する。
- ・春日山城跡ものがたり館入館者数：23,000 人

## ○実施内容、これまでの経過等

## [これまでの経過]

- ・昭和 10 年 8 月 27 日 春日山城跡が国史跡に指定 (昭和 49、55 年、平成 12 年追加指定)  
史跡指定公有地化率：95% (史跡指定地 58.6ha から寺社所有地等を除く公有化対象地 53.9ha のうち、51.2ha を公有地化済)
- ・平成 8 年度に春日山城史跡広場・春日山城跡ものがたり館をオープン  
春日山城史跡広場や春日山城跡ものがたり館などの管理を地元管理組合と協働で実施  
委託先：春日山城史跡広場管理組合 (地元 5 町内 [大豆、春日、中門前、谷愛宕、春日野])
- ・平成 10 年度に「春日山城跡整備 5 か年計画」を策定
- ・杉伐採等による景観整備 (平成 11 年度～)、土砂崩落防止工事の実施 (平成 19～28 年度)
- ・平成 11 年度から春日山城跡整備 5 か年整備事業を開始 (平成 30 年度終了)
- ・平成 20 年度に昭和 54 年度策定の「史跡春日山城跡保存管理計画書」を改訂
- ・平成 28 年 7 月に春日山城跡但馬谷で発生した土砂崩落の災害復旧を実施 (平成 28 年度実施設計、平成 29 年度災害復旧工事実施)

決算書 (P 368～P 369)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	春日山城跡保存整備事業		

[実施内容]

(1) 維持管理

- ・草刈りや低木伐採などの景観整備の実施
- ・災害復旧後の点検及び経過観察の継続
- ・遊歩道、大井戸柵の修繕
- ・鳥獣被害対策（イノシシ対策）

(2) 活用

- ・市民団体や地元小中学校との協働による土の一袋運動や松葉かきの継続
- ・散策会（まいぶん春日山講座）の実施
- ・「日本 100 名城」スタンプラリーの参加者：8,214 人（平成 30 年度 6,141 人）

○施設の管理実績（春日山城跡ものがたり館）

・入館者の推移

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
			計画	実績
入館者数	24,720 人	22,916 人	23,000 人	26,122 人

・施設管理における市の収支状況

区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
			予算	実績
①収入	使用料収入	—	—	—
	その他	※ 7,346	—	—
	合計	7,346	—	—
②支出	施設維持管理費	4,779	4,954	5,098
	うち委託料	3,458	3,588	3,532
	その他	2,567	2,571	2,620
	合計	7,346	7,525	7,718
③公費投入額（②－①）	0	7,525	7,718	7,576
④利用者 1 人当たりの公費投入額（単位：円）	0	328	336	290

※寄附者の意向により国宝太刀収集事業寄附金を充当したもの

○目標達成状況

入館者数は 26,122 人であり、目標と比べて 3,122 人上回った。

決算書 (P 368～P 369)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	春日山城跡保存整備事業		

#### 【事業の成果】

- ・災害復旧後、継続的に行ってきた点検及び経過観察、並びに城跡保全に不可欠な雨水処理、植生管理及び遊歩道の在り方等の検証により、必要な手当てや工事（遊歩道修繕）を実施したほか、鳥獣被害対策（イノシシによる掘穴の埋め戻し等）を行い、城跡の保護を図った。
- ・遊歩道修繕及び大井戸柵の修繕により、城跡を訪れる人が安全・安心に散策できる環境を整備した。
- ・地域団体や小中学校等の協力を得て、草刈りや土の一袋運動、松葉かきなどを行い山城景観の維持管理を図るとともに、活動を通じ、城跡の保護と郷土の史跡への愛着を深めることができた。（小中学生参加者：計 1,225 人）
- ・講座の開催や小中学校との連携により、地域学習の教材として利活用を図ることができた。
- ・春日山城跡史跡広場管理組合への委託により、春日山城跡ものがたり館及び史跡広場の管理を適切に行い、良好な環境を維持することができた。それにより、謙信公祭のメイン会場として定着するとともに、市民の史跡公園として多くの方に利用いただいた。
- ・監物堀や大手道沿いに移植したカキツバタが訪れる方々の目を楽しませた。

#### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・史跡としての価値を損ねることのないよう、引き続き広大な史跡用地の良好な環境の保全に努める。
- ・史跡用地において雨水処理や植生管理等の日常的な点検・観察を続けるとともに、近年増加傾向にあるイノシシ被害や集中豪雨への対策などを行っていく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

#### 【執行残額について】

○入札差金 108

- ・施設管理委託料、春日山城跡保存整備委託料ほか

○その他 195

- ・文化財調査審議会委員報酬、費用弁償、営繕修繕料、公有地管理委託料、土地借上料ほか



(単位：千円)

決算書 (P368～P369)	10款5項6目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	市内遺跡発掘調査事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
8,033	6,695	3,258	635			2,802
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,338			202	1,136	

## 【目的】

各種開発事業から埋蔵文化財を守るため、発掘調査を行い、開発事業との円滑な調整を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・ 県営ほ場整備事業等の開発地内で試掘・確認調査等を実施した。
- ・ 県営ほ場整備事業地内で本調査(平成30年度)を行った天狗遺跡発掘調査報告書を刊行した。
- ・ 試掘及び確認調査の結果を市内発掘調査概要報告書として刊行した。

## ＜確認調査＞周知の遺跡の範囲、内容等の詳細を確認するための調査 (単位：㎡)

遺跡名(開発事業)	所在地	調査対象面積
高田城跡(公園整備)	本城町地内	21
今池遺跡(県営ほ場整備事業・今池地区)	大字今池地内ほか	147,000
榊形城跡(上越魚沼地域振興快速道路建設)	三和区末野地内ほか	4,000
蓮華寺五輪塔群(上越魚沼地域振興快速道路建設)	三和区末野地内ほか	10,000
至徳寺跡(宅地造成)	東雲町地内ほか	2,000
狐山遺跡(工場建設)	大潟区上小船津浜地内	70
合計		163,091

## ＜試掘調査＞周知されていない遺跡の有無を確認するための調査 (単位：㎡)

開発事業	所在地	調査対象面積
県営ほ場整備事業・岡野町地区	清里区岡野町地内ほか	110,000
県営ほ場整備事業・中江有田地区	三ツ橋新田地内ほか	177,000
上越魚沼地域振興快速道路建設・神田工区	三和区神田地内ほか	20,000
合計		307,000

決算書 (P 368～P 369)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	市内遺跡発掘調査事業		

<発掘調査報告書作成>

遺跡名（開発事業）又は報告書名	調査地
天狗遺跡（県営ほ場整備事業・高野地区）	板倉区高野地内
市内遺跡発掘調査概要報告書	市内全域

【事業の成果】

事業主体との円滑な調整を行い、工法変更等による現地保存や発掘調査による記録保存により埋蔵文化財の保護を図ることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

今後も事業主体との円滑な調整を行い、埋蔵文化財の保護に努める。

【執行残額について】

○入札差金 202

・印刷製本費

○その他 1,136

・報酬、共済費、旅費、需用費、機械借上料ほか（調査対象面積が当初の予定より少なく、作業量が減少したため）



県営ほ場整備事業地内・岡野町地区試掘調査  
調査風景



県営ほ場整備事業地内・中江有田地区試掘調査  
調査風景

(単位：千円)

決算書 (P368～P369)	10款5項6目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	ほ場整備等遺跡発掘調査事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
17,801	17,097		17,097			
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	704			27	677	

## 【目的】

県営ほ場整備事業等の開発事業地内において遺跡の発掘調査を行い記録を保存する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・上越魚沼地域振興快速道路事業地内において本発掘調査を実施した。
- ・県営ほ場整備事業に伴い実施した本発掘調査の整理作業を行い、報告書を刊行した。

## &lt;本発掘調査&gt; 県営ほ場整備事業に係る発掘調査

(単位：㎡)

遺跡名(開発事業)	所在地	調査面積
神田原山窯跡(上越魚沼地域振興快速道路事業)	三和区神田地内	約1,500

## &lt;発掘調査報告書作成&gt;

遺跡名(開発事業)	調査地
天狗遺跡(県営ほ場整備事業・高野地区)	板倉区高野地内

## 【事業の成果】

本発掘調査を実施した遺跡について整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行することで、遺跡の記録保存をすることができた。また、現地での説明会により地域の歴史に関する理解や関心を深める契機となった。

## 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

今後も事業主体との円滑な調整を行い、遺跡の記録保存や現地保存など埋蔵文化財の保護に努める。

決算書 (P 368～P 369)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	ほ場整備等遺跡発掘調査事業		

【執行残額について】

- 入札差金 27
  - ・印刷製本費、委託料
- その他 677
  - ・報酬、共済費、旅費、委託料、機械借上料ほか



神田原山窯跡 調査風景



天狗遺跡 整理作業風景

(単位：千円)

決算書 (P368～P371)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	埋蔵文化財センター管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
8,721	7,852				8	7,844
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	869			99	770	

## 【目的】

埋蔵文化財の保護のため、調査研究、保存管理・普及公開を行うとともに、小中学校の総合的な学習の時間や春日山城跡・春日山城跡ものがたり館などを結ぶ歴史巡りのルートとして活用を図り、郷土の歴史に関する理解を深めてもらう。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・入館者数：29,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

- (1) 施設の維持管理
- (2) 施設利用学習の実施
  - ・施設利用学習…71件 (3,040人 直江津南小学校、春日中学校、春日山町1丁目町内会など)
- (3) 展示・講演会の実施
  - ・常設展「謙信公の見た頸城一戦国時代のまちとむら」を開催
  - ・「越後上越 謙信公と春日山城展」を開催  
(謙信公の郷振興協議会主催、平成31年4月1日～令和2年3月31日)

## ○施設の管理実績

- ・利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			計画	実績
入館者数	31,861人	27,800人	29,000人	33,312人

決算書 (P368～P371)	10款5項6目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	埋蔵文化財センター管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	12	8	4	8
	その他	※A 8,795	※B 300	—	—
	合計	8,807	308	4	8
②支出	施設維持管理費	8,451	7,981	8,290	7,506
	うち委託料	1,694	1,576	1,831	1,804
	その他	356	707	431	346
	合計	8,807	8,688	8,721	7,852
③公費投入額 (②-①)		0	8,380	8,717	7,844
④利用者1人当たりの公費投入額 (単位:円)		0	301	301	235

※A 寄附者の意向により国宝太刀収集事業寄附金を充当したもの

※B ふるさと納税を充当したもの

○目標達成状況

令和元年度の入館者数は33,312人となり、目標を達成することができた。

【事業の成果】

- ・縄文時代から戦国時代、近世までの出土品や絵図等の資料を展示することで、当市の歴史、魅力を伝えることができた。
- ・埋蔵文化財の保護の拠点として、調査研究、保存管理及び普及公開を行うとともに、小中学校の校外学習などの場に供することにより、地域への誇りや愛着を高めることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・謙信公・春日山城跡を始め、市内の遺跡の発掘調査で得られた資料等により展示内容の充実を図り、入館者数の維持に努める。
- ・市内小中学校等へ施設利用学習や総合的な学習の時間等での活用をPRし、児童生徒が埋蔵文化財に触れることを通じ、郷土の歴史に関する理解を深められるよう努める。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

○入札差金 99

- ・備品修繕料、施設管理委託料ほか

○その他 770

- ・報酬、共済費、旅費ほか 301
- ・光熱水費、電信電話料、下水道使用料 469

(単位：千円)

決算書 (P370～P371)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	「弥生のムラ」コミュニティパーク事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
25,577	24,789	4,629			219 (諸収入)	19,941
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	788			36	752	

## 【目的】

北陸新幹線上越妙高駅に近接する国指定史跡吹上遺跡・釜蓋遺跡の保存・活用を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・国指定史跡釜蓋遺跡のガイダンス施設として、吹上遺跡・釜蓋遺跡の価値や魅力を分かりやすく紹介するとともに、広く発信する。
- ・釜蓋遺跡ガイダンス入館者数：21,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

平成 20 年 7 月 28 日 吹上遺跡と釜蓋遺跡が国の史跡に指定  
 平成 27 年 3 月 24 日 吹上遺跡の出土品 (1,320 点) が新潟県文化財に指定  
 平成 27 年 4 月 16 日 釜蓋遺跡公園開園

## (1) 発掘調査

- ・平成 21～30 年度に実施した発掘調査の成果をまとめた総括報告書刊行に向け作業を実施
- ・総括報告書に係る整理作業において、考古学を専攻する大学生の受入事業を継続して実施

## (2) 活用

- ・吹上・釜蓋遺跡応援団との連携による体験活動やイベントの実施
- ・小学校の校外学習向け活動プログラムや遺跡の魅力を発信する講座の実施

## (3) 維持管理

- ・釜蓋遺跡ガイダンスの維持管理の実施
- ・吹上遺跡及び釜蓋遺跡の草刈りなど史跡内の維持管理の実施

決算書 (P370～P371)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	「弥生のムラ」コミュニティパーク事業		

○施設の管理実績

・利用者数等

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
			計 画	実 績
利用者数	21,163 人	21,513 人	21,000 人	21,011 人
体験者数	5,256 人	5,002 人	—	4,238 人

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	—	—	—	—
	その他	※9,095	194	135	218
	合計	9,095	194	135	218
②支出	施設維持管理費	13,338	13,745	14,598	14,013
	うち委託料	6,378	6,683	7,123	7,108
	その他	1,289	1,459	1,221	1,224
	合計	14,627	15,204	15,819	15,237
③公費投入額 (②-①)		5,532	15,010	15,684	15,019
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)		261	698	747	715

※寄附者の意向により国宝太刀収集事業寄附金及びふるさと納税を充当したもの

○目標達成状況

入館者数は 21,011 人となり目標数の 21,000 人を上回ることができた。

【事業の成果】

- ・出土品の整理作業を行い、報告書に掲載する基礎資料を整えることができた。
- ・釜蓋遺跡発掘調査学生受入事業では、学生の知識・技能の向上を図ったほか、遺跡の魅力に参加学生や報道等を通し発信することができた。
- ・吹上・釜蓋遺跡応援団主催による遺跡まつり（年 2 回）の実施や、釜蓋遺跡ガイダンス定期講座の開催などにより、市民へ埋蔵文化財に関する情報提供や釜蓋遺跡の魅力などの発信ができた。
- ・小学校と連携を図り、総合的な学習の時間の一環としても釜蓋遺跡公園・釜蓋遺跡ガイダンスの活用が図られた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・釜蓋遺跡発掘調査総括報告書について、令和 2 年度内の刊行に向け引き続き作業を進める。
- ・吹上遺跡及び釜蓋遺跡の知名度向上を目指し、施設等の周知を図るとともに、吹上・釜蓋遺跡応援団と連携し、遺跡まつりなどを継続して実施することにより魅力を発信する。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。



決算書 (P370～P371)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	「弥生のムラ」コミュニティパーク事業		

【執行残額について】

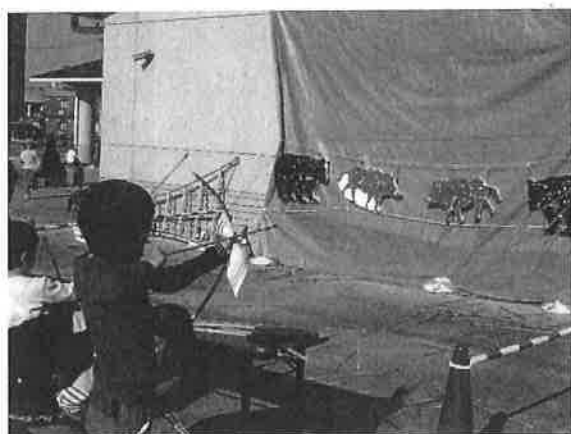
- 入札差金 36
  - ・自然科学分析等委託料、施設管理委託料ほか
- その他 752
  - ・現業非常勤一般職報酬、社会保険料、燃料費ほか 118
  - ・非常勤一般職報酬、光熱水費、複写機借上料ほか 476
  - ・費用弁償、普通旅費 158



発掘調査学生受入事業での作業の様子



釜蓋遺跡ガイダンス定期講座の様子  
(講師 新潟大学フェロー 橋本博文氏)



遺跡まつりの様子 (狩猟体験)



遺跡まつりの様子 (火おこし体験)